

序にかえて

学園で過ごした日々を顧みて

女子栄養大学教授 福田 恵美子

平成15年は香川栄養学園の創立70周年記念の年である。この年度をもって定年退職する筆者は本学（香川栄養学園）の誕生した1933年に生まれた。本学が四年制新制大学として発足した1961年に筆者が大学院博士課程（当時女性が珍しかった）を修了し、一般教養科目の物理学を担当することになった経緯は、昨年（2002）の紀要総説（2002）に記した。

1961年度から2003年度までの間、物理学のみでなく、数学・医用工学概論・同実習、コンピュータ実習・卒業研究その他を担当し、さまざまな専攻の学生達（その親達の世代が、筆者の親達の世代から、筆者自身のそれ、更に筆者の子供達の世代へと移り変わった！）とつきあえたことは、大学自体の目を見張る成長やそれに協力された様々な専門の先生方と生活を共にし得たことと共に、筆者の人生を実りあるものにしてくれた気がする。

筆者が青春時代に情熱を傾けた理論物理学の世界（さまざまな自然現象の時間変化・展開が共通の数式で記述されることによって予測可能となるという単純で美しい世界）は、コンピュータの発達によって、初期条件の僅かな違いから予想を越えた異なる展開に至るという複雑系の世界を包含するようになった。

1980年代になって高機能のパソコン（NEC PC-98シリーズ）が出現し、大型計算機センターを利用しなくても、自宅でCGや複雑な数値計算が可能となった。ワープロ機能も向上し、半角文字のみから全角文字（ひらがな等）も、更に漢字もコードと呼ばれる4桁の数値を辞書で調べて入力すれば書けるようになった。ただし、画面のどこにどの大きさで表示するか等の画面の設計には、BASICというプログラミング言語を入力する必要があった。1987年に医用工学実習に導入した内田洋行「パソコン計測システム」は、筆者が物理学会大会の展示室で見て購入に至ったパソコンの周辺機器とソフトであるが、

そのソフトの動作を指示する命令群（プログラム）はN88BASICで書かれていて、プログラムを見ることも修正加筆することも可能であった。このN88BASICプログラミングを筆者は医用工学実習の学生にポケコン pocketable computer を使用して、5～6名の班ごとに教えた。そのポケコンは当時方々の研究室で使われ始めていたものを実習期間だけ借り集めたものであった。

1993年に文化栄養学科が発足し、筆者は「コンピュータ実習Ⅱ」を担当したが、1998年コンピュータ室のパソコンの入れ替えに伴いプログラムがN88BASIC（NEC用）からF-Basic（Fujitsu用）へと変わり、自作マニュアルの作り替えに迫られた。当時はコンピュータの機能の向上を表すバージョン・アップと他機種とのデータ互換性の無さに起因する業界の熾烈な競争から、コンピュータは生鮮食品並みに3ヶ月で入れ替わるとまで言われた。1998年暮に日本にもMS（Microsoft）のWindows 98が登場し、インターネットを活用する国際的な情報化社会が到来して、上記の混乱は緩和されたが、社会全体が受けた影響は大きかった。近年、本学でもそれまでコンピュータに無縁であった教職員をも含めて全員が日常的にコンピュータとつきあうようになったが、ユーザーはコンピュータを動かすために必要なプログラミングを知らなくても済むようになった。

筆者担当の「コンピュータ実習Ⅲ」も2000年度からは（MS）Visual Basicとした。マウスで初期画面を設計し画面上にボタンをつけ、実行中にクリックすれば画面が変化するように短いコードを入力すればよかった。学生向けのオリジナルなマニュアルは2002年に出版部から販売してもらった。

これまでお世話になった皆様に心からの謝意を表したい。